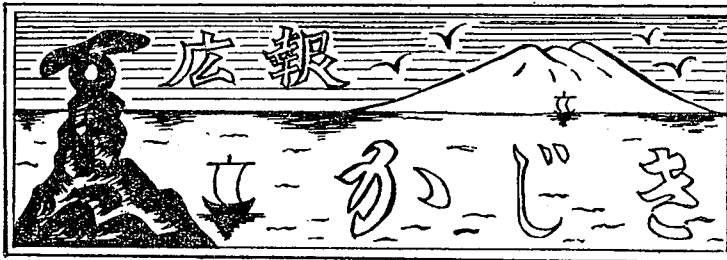


◆……今年の成人者へ

来る1月15日は第14回成人の日です。本町では、昭和16年1月16日以降～昭和17年1月15日までの出生者を対象に、当日柁城小講堂で午前8時40分から受付開始、9時30分から式典を行ないます。成人者はすんで参列してください。



発行所 鹿兒島県姶良郡加治木町役場 (二戸一枚配付) 発行人 曾木隆輝 編集人 中元邦夫 印刷所 吉屋印刷所

＝町内一周駅伝＝

第8回を迎える町内一周駅伝競走は1月15日午後1時30分から町役場前で開会式 2時にスタートします。チーム編成は校区単位で、学生3名、青壮年3名です。

加治木町の玄関口、駅前ひろ場の全面舗装まきまる

町の玄関口である駅前広場の南側半分を、建設省の補助で舗装することになった。この舗装の線は、どこにするかについて、町と国鉄との間で問題があり、もたついていた。他の都市でも、同様な状況で、四年も五年もかかるのが普通で、当町分も今年中には、まきまるまいと心配されていた。町長は、10月始め上京して国鉄本社に直接談判にはいつた。ところが、この難問は、



公営住宅34戸の建築決る

岩原団地24戸の工事は、すでに着工されたが、後の十戸のブロック住宅は、町営温泉の近くに建てることにきまつた。町としてはこれに上水道を引くついでに、高井田まで全面的に一挙に舗装されることとなるが、国鉄がこんな早く解決したことや、田舎のカスの汚水をのんでいる形で衛生上からも、問題があるの

加治木港の工事完了近し

加治木港の突堤を長さ一二

祝祭日に は戸毎に 国旗を 元日 15日成人の日

年頭の挨拶

町長 曾木隆輝

昭和三十七年の新春を迎ゆるに当り、町民の皆様にご挨拶を申し上げます。今日日本は、もはや、戦後でなく、世界が驚きの目を見張るほど復興し、経済が伸張するに至りました。それは、御同慶に存じます。それだけ昭和三十六年の一ケ年は、余りにも早く流れ去つたやうな気がいたします。

さて顧みますと、都市と、地方により、又職業により、収入の格差が中央の思うどおりには、縮まって来なかつたやうです。

網掛川護岸工事いそぐ

田中鉄橋の北から、新中にかけての護岸工事は、税所組や、幸生組の手で大じかけな工事が進められていたが、田中橋と、井せきの作りかえについて、この際、国、県の手でやつて貰うよう、町は建設省に数回にわたつて、陳情したところ、やつと取り上げてもらうこととなつた。

町内あちこちに 簡易水道のびる

沿岸漁業不振により、最近も、養魚を奨励して、本町でも、坂口さんの養魚本中野さんの養魚、その他十数人が同好会をつくり、県や町の協力により、だんだん盛んになりつつあります。

急転直下解決を見たばかりでなく、町がやる残りの半分の広場の舗装も、国鉄が二百万円以上今年度中に金を出して、直接舗装してやるとの言明を得た。

交通安全協会や、踏切事故防止会のはたらきかけで、柳田(裁判所下)の踏切の拡張と、もと番小屋の除去が決定し、又新道の踏切の拡張は、県でとりあげ、本年度予算(町一部負担)で、現在工事をいそいでいる。

踏切の拡張工事

国民健康保険事業や、民生委員、人権擁護委員、行監委員の方々は勿論、社協の心配事相談所なども一年中町民の悩みの解決と相互扶助の実を良くあけて貰いました。

養魚の希望者ふえる

去る12月7日行なわれた町秋季園芸品評会の入賞者は次のとおり。

秋には駅前酒類卸売組合も完成し、西別府の吉左右衛門太鼓餅は県の無形文化財第一号の認定書を贈られたり、役場は法務大臣や郵政局長の表彰を受けたりました。

本年は政府としても経済成長率も相当規制する方針であるが、この事では、一方小売物は幾分上ると見えています。

秋の園芸品評会成績

去る12月7日行なわれた町秋季園芸品評会の入賞者は次のとおり。

町長出席

十一月三十日東京で、学校施設の予算獲得の全国大会が市町村財政課、国の要請で、串木野市財政課、町長が東京、文部省、大蔵省等と折衝、危険校舎改築や、特別教室整備のための予算増額の陳情をした。来年度の加中の問題もある。町長として、本町の全体枠のかく大を強く要請した。

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

町長 曾木隆輝

青年・壮年・婦人活動研究集会ひらく

1月31日 柁城小で

発表申し込みは20日まで

わたしたちの町の産業振興と地域の生活文化を一段と向上させるため、例年にならぬ青年、壮年、婦人グループ活動研究集会を開催することになりました。団体活動に限らず個人プロジェクトを中心に活動されている方もすすんで参加して下さい。(町公民館)

昭和36年度加治木町青年・壮年・婦人活動研究集会実施要領

- 一、とき 一月三十一日(水) 午前十時から(九時から審査員打合せ)
- 二、ところ 柁城小学校講堂
- 三、参加範囲 青年団、婦人会・PTA、農事研究会、4Hクラブ、青年学級、婦人学級、成人学級その他一般希望者
- 四、主催 加治木町、町公民館、町農業協同組合、加治木地区農業改良普及所、町連合婦人会、町青年団連絡協議会、
- 五、発表内容
 - イ、自分たちの生活と、生産に連なる組織活動とはどんなものであるかを、実際におこつた問題、現実にあつたことからの中から引き出すこと。
 - ロ、集会の話合いや、みんなで考えたこと、各自が実際に体験したこと、みんなで実践したことを部落、校区、町の段階へと積み上げたものを中心とする。
 - ハ、自分たちが活動してゆく上に悩んだこと、みんなで力を合わせて解決して行こうとしている過程、残された問題等について。
 - ニ、団体活動に限らず個人プロジェクトを中心として活動しているもの。
- 六、発表主題
 - イ、単位団体(青年団、婦人会、PTA、各研究会、4Hクラブ、諸学級)を育てるために、私達の団体ではこのことをこの様にしている(現況、今後の在り方)
 - ロ、役員のある方、選出の方法
 - ハ、会員の自主性のたかめ方。(会員の加入、脱退、年令、構成、意識、会費など)
 - ニ、学習活動、男子成人、婦人、青年学級、グループ活動、定例会その他。
 - ホ、健全な収支の確立。
 - ヘ、他団体との相互関係。
- 七、発表形式
 - イ、発表時間は(一人十分)
 - ロ、発表順位は、壮年、青年、婦人の順とし、発表においては、八分まで一回の合図をなし、あと二分でまとめる。
 - ハ、発表者には全員参加賞を授与する。
- 八、発表申込
 - イ、申込締切 一月二十日(正午まで)
 - ロ、申込先 町公民館
 - ハ、申込書には発表者氏名、所属名、テーマを記入のこと。

第13回人権週間を寄せて

鹿兒島法務局加治木支局

いつ頃からか「カミナリ族」とか「走る凶器」とかいう言葉が生まれてきました。たが、スピーチを演じた人、命を失った人、人間として「自由に生きる権利」をもつていないのです。それなのに、親の手で死の道連れにされる悲惨な事実も後を絶ちません。これら様々の世相は人間の生命の尊厳どころか、まるで飛び散らされる木の葉でしかありません。わたしたちは社会で、或は家庭で、陽なたでも、日陰でもいろいろな所で、いろいろな形に於いて暴力がどのように人の幸福を妨げているかを常日頃十分身に沁みて知つていなくてはなりません。私たちがこれらに対して「命を落しているもの」と「ただ泣き入りをしていては、却つてそれらの暴力を、はびこらせ育てていくばかりです。どう考えても、すじの通らぬ圧迫は、それを取り除いていく勇氣と努力が必要で、私達は自分の人権を守るために、そしてお互いの平和を築き上げるために立ち上らねばなりません。人の生きていくということの尊厳を自覚し、これに徹すれば、どんな場合においても暴力によつて、人を不幸に落す事は出来ないと信じています。今年の人権週間は十二月四日から十日まででしたが、「すべて人間は生れながらにして自由であり尊厳と権利において平等である人間は理性と良心とを与えられており、互に同胞の精神をもつて行動しあわなければならない」という世界人権宣言の言葉をよくかみしめ、お互いに協力し合つて、あらゆる面でのあらゆる形の暴力を家庭から、社会から取り除くことを強く誓ひ合ひましょう。

米の売渡しあと一息

みなさんの御協力を

昭和三十六年産米政府売渡については、十二月二十日現在の売渡実績は県割当目標八一六〇石に対し六四五七、二石約七九、一%です。あまり良い成績ではありません。今後生産者みなさんの御協力をお願いいたします。

生活改善協力員に

松金ふじさん

さきに、生活改善普及事業の協力員制度が設けられ、その協力員として、岩原西生活改善グループの岩下とし子さんが、県知事から発令されましたが、今回転出することになり、同グループの松金ふじさんが後任として発令されました。

本町の育英事業

奨学金による卒業生

すでに32人が実社会へ

加治木町では優秀な学生生徒で、経済的理由によつて修学困難な者に、昭和三十年から奨学金の貸付けをしてはじめてから昭和三十六年十二月までの奨学生総数は、高校生四一人、大学生二三人、奨学金の貸付累計額は、二二九万円に及び内一六万円は篤志家の寄付によるものであります。現在この恩恵により、大学を卒業した者八人、高校を卒業した者二四人は、何れも実社会において活躍をしております。本年は、大学四名及び高校生十名の範囲で、奨学生を募集することになり、二月中には推せんを終え、貸与者を内定することになりますので、希望者は、中学校長、又は、高等学校長に申し込んで下さい。

嘱託員報酬問題解決

去る六月嘱託員組合から、報酬引き上げの陳情書が議会に出されてきたが、十月の臨時議会で採択、町へ送付されたので直に組合代表と、交渉を開始、十一月十三日第三回目の交渉で妥結した。

加中、永原中の建築工事始まる

建築工事始まる

加中6教室、永原中5教室の鉄筋コンクリート新築工事がいよいよはじまった。加中PTA幹部、それに柁城校の林PTA会長など役員、合計70人80人が当り、役場で数日10数万円を見込んでいたが、全く資材費支の支出にとどまり、しかも数時間で片付いた。皆がやろうと力を合すると何事でも出来るもたと、一同汗をふきふき、自分でおどろ

県下で最下位の成績

レントゲン検査

相当の数でありましてこの病気を社会からなくしようとする予防法であり、レントゲン検査によつてその発見を早く、治療を容易にしようとするものであります。本町では、もう一度脱ろう者の検診を実施することにいたしましたので、前にうけなかつた人は洩れなく検診して下さい。

人事

△選挙管理委員変る

- 委員長 福島敬蔵(新)
- 委員 坂部久雄(旧)
- 増田庄之助(新)
- 小宮路敬藤(新)

△教育委員変る

- 前教育委員長松田真平氏の任期満了に伴い、後任に日木山の山下景二氏が委員として選任され、教育委員会は委員長に田中早苗氏を選びました。

このレントゲン検査(定期健康診断)は、結核予防法によつて年一回は必ずうけなければならぬことになっております。これに基づいて、本町は昨年十月十日から十七日の一週間に、各地区にレントゲン車を配置し、個人通知をして一般の検診方を願ひしたのですが、受診率は僅かに対象者の二〇%に満たない有様でした。これは県内最下位の受診率でありまして、心が薄いと云う事になり、結核は現在死亡率は少なくはなつていますが、罹病者はなを年々やることがふみきり、とりあえず、12月から仮橋を造り、鉄筋に造りかえる工事にかかることになった。

竹下橋かけ替え工事着工

竹下橋は、こわれて危険であるが、町では何とかしたいと思ひながら、財政面で困難であるので、失対事業におりこんで、時間は、かかってもやることにふみきり、とりあえず、12月から仮橋を造り、鉄筋に造りかえる工事にかかることになった。

なお、錦江橋についても、同様な状況で、町民に不便と危険を感じせしめていたが、一千万円以上を要するので、国の補助にまつ外なく、去る12月6日、新任の日高県計画課長にも、検分して貰ひ、又中央では、建設省に働きかけているが、本省では来春2月頃再度検討するようである。